

# 広島訪問2日目

平成27年8月6日(木)

## 《行程》

平和記念式典に参列(参列者:約55,000人)

- ・原爆死没者名簿奉納 ・式辞 ・献花 ・黙とう・平和の鐘
- ・平和宣言(広島市長) ・平和への誓い(こども代表2名)
- ・あいさつ(内閣総理大臣、広島県知事、国際連合事務総長)
- ・ひろしま平和の歌

呉市大和ミュージアム(講座、自由見学)

- ・「大和」講座・・・戦艦大和の歴史・技術について
- 【講師】大和ミュージアム職員

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館(自由見学)

本川小学校平和資料館

【ガイド】本川小学校保護者

グループワーク(振り返り等)



# 平和記念式典



< 原爆死没者名簿奉納、黙とう・平和の鐘 >

< 概要と感想 >

広島訪問2日目は、平和記念式典への参列からです。

戦後70年・被爆70年ということもあり、参列者数は約55,000人でした。

今年、原爆死没者名簿奉納により、359人の名前が載った3冊の名簿が奉納されました。今年の名簿が入り、名簿は109冊、計29万7,684人の名前が載っています。

続いて、午前8時15分、原爆が投下された時間に黙とうを行いました。遺族代表 仲川弘美さんと、こども代表 東川悠輝さんが鐘をつき、1分間参列者全員で黙とうしました。

# 平和記念式典



< 平和記念式典での献花 >

## < 概要と感想 >

「平和への誓い」で、こども代表の桑原悠露さん(白島小6年)と細川友花さん(矢野南小6年)は、「広島に育つ私たちは 事実を 被爆者の思いや願いを 過去 現在 未来へと 私たちの平和への思いとともにつないでいく 一人となることを誓います」と述べました。

# 平和記念式典



< あいさつをする安倍内閣総理大臣 >

## < 概要と感想 >

「平和への誓い」の後、総理大臣、広島県知事、国連事務総長からあいさつがありました。「『核兵器のない世界』の実現に向けて、一層の努力を積み重ねていく決意です」「広島は、核兵器を廃絶し、平和を礎にして世界が発展するため、平和の拠点として世界に貢献していきたいと思います」「広島は世界に勇気を与えており、国際社会は核兵器のない世界を実現することにより広島の実験を生かす義務を負っています」と、世界で核兵器の廃絶を進めていく方針を参加者に伝えました。

この言葉が世界の人々に伝わり、核兵器がなくなればよいなと思いました。

# 大和ミュージアム(呉市について)



< 大和ミュージアムから臨む呉の港 >

## < 概要と感想 >

続いて、呉市大和ミュージアムを見学しました。

呉市は江戸時代までは小さな港でした。しかし、明治時代になると政府は、『富国強兵』をスローガンに、“欧米諸国に対抗するための産業・軍備の近代化”を進めました。そこで海軍をつくり、その拠点となる鎮守府(ちんじゅふ)を、呉、横須賀、舞鶴、佐世保の4か所に設置しました。

鎮守府とは、軍港に設けられた海軍の機関のことです。海軍基地の防衛、水兵の教育、艦艇の整備の3つを行います。

# 大和ミュージアム(海軍について)



< 職員の方から「大和」講座を受ける様子 >

## < 概要と感想 >

海軍は、明治頃に日本に多くのものを伝えました。その中でも、レンガ造りの建物、ビル、電車、野球は、海軍がなければ日本に伝わらなかったものです。

そのような海軍ですが、短所もあります。それは、戦争になると、海軍の施設がある地域は非常に狙われやすく、空襲が酷くなることです。そのため、広島に原爆が投下される1か月前には、呉市は火の海になってしまったと言います。

# 大和ミュージアム(戦艦「大和」について)



< 10分の1の戦艦「大和」 >

## < 概要と感想 >

1941年12月、戦艦「大和」は造られました。「大和」は、全長263mの蒸気で動く船ですが、その技術はもともと日本にはなく、外国から船を買い、それを見よう見まねで造って取り入れました。

「大和」を造るために使った技術は、最先端のものが採用されました。そのためもあって、図面はなんと3万枚にも及びました。そして、驚くことに関係者以外に「大和」が造られているということを知る人はいなかったと言います。

戦時中に、軍艦を造るという一つの産業ができましたが、戦後は平和のために、その技術が役立てられました。たくさんの犠牲の上に、今の私たちの暮らしがあることを学びました。

# 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館



< 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 >

## < 概要と感想 >

続いて、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館を見学しました。

1945年8月6日に投下された原爆により、亡くなった市民、捕虜、軍人の死者の存在を後世に残すため、そして今後、こうした惨劇を二度と起こさないために作られた施設です。

施設内には8時15分を表すモニュメントが2つあります。1つのモニュメントの場所には、原爆が投下された直後の町の風景のパノラマが、周りの壁に描かれています。もう1つのモニュメントの場所には、施設の地下にあった被爆したガレキが置いてあります。

# 本川小学校平和資料館



< 本川小学校平和資料館 >

## < 概要と感想 >

訪問2日目の最後は、本川小学校平和資料館の見学です。本川小学校は明治6年に創立された学校です。昭和20年8月6日の原爆投下で、本川小学校は爆心地に最も近い小学校として大きな被害を受けました。校舎は被爆直後、救護所として使われました。この建物は、今も原爆投下の日を語ってくれています。この写真は、本川小学校の被爆後の様子です。壁が原爆の熱によって焦げ、教室の中の物がボロボロになっています。

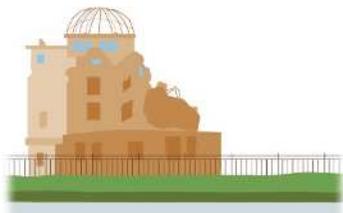
私たちは本川小学校を訪れて、原爆によって生活が壊される恐怖や悲しさを感じました。この悲しみを繰り返さないようにするため、戦争について伝えていきたいです。

# 広島訪問3日目

平成27年8月7日(金)

《行程》

グループワーク(広島平和記念資料館等見学)



# グループワーク(被爆地広島を忘れない)



< 被爆樹木アオギリ >

## < 概要と感想 >

広島訪問最終日は、広島平和記念公園内でグループワークを行いました。もう一度見学したい施設や、新たに行ってみよう施設など、班行動で回りました。

まず、どの班も広島平和記念資料館を訪れ、時間をかけて、ゆっくり、じっくり見学しました。公園内には、まだまだ多くの施設があります。「動員学徒慰霊碑」や「被爆樹木アオギリ」など、時間が許す限り、見学しました。